

# 6年 社会科学習指導案

授業者 原 亨介

1. 単元名 「平和の未来を紡ぎ出す～静岡空襲の声と記憶から～」（世界の未来と日本の役割）

## 2. 単元の目標

○静岡空襲について調査したり、静岡空襲を経験した語り部の話を聞いたりすることを通して、過去に自分たちの住むまちにも空襲があり多くの人が犠牲になったことや平和を維持していくことの大切さについて理解する。 [知識及び技能]

○戦争が多くのものを奪う二度と起こしてはいけない出来事であることや平和の尊さに目を向けながら、それらを未来へ語り継いでいる語り部という人の情意に迫ることを通し、これからの未来における平和とは何か、それを実現していくためにどうすべきかを考え自分の言葉で表現する。 [思考力、判断力、表現力等]

○過去の戦争や現在世界各地で起こる紛争、そこにいる人の姿を見つめることを通して、世界の人々が幸せに暮らすためにどうすべきかを考え、学習したことと社会生活に生かそうとする。

[学びに向かう力、人間性等]

## 3. 子どもと教材

本学級の子どもは、互いの思いを大事にしながら生活をしており、授業においては自身の考えを積極的に表出することができる。飾らない言葉で自身を表現できるのは、本学級の子どもが仲間の思いを大事にしながら互いを認め合っていることが根底にあるからだろう。歴史の学習で登呂遺跡や賤機山古墳に見学に行った際には、疑問の解決のために、時間が足りなくなるほどの質問を施設の方にぶつけていた。気になったことについて人と関わりながら没頭して追究に進んでいく姿も本学級の子どもの魅力の一つである。他者を尊重する心が学級に根を下ろしている子どもだからこそ、多様な価値観にふれながら学び進めることは自身の未来を広げていく豊かな可能性を内包しているといえる。

「原爆資料館とかは残していく必要があると思う。だってそれはもう戦争を起こしちゃいけないっていうものを伝えるものでしょ」これは古墳時代の授業で、古墳の必要性が議論になった際に子どもが話した言葉である。また、日本社会の課題についての授業で、国が大事にすべき政策を議論した際に「『平和』は別に後回しでいいでしょ。だって日本は今平和なんだから。日本じゃなかつたら違うかもしれないけど」と述べた子どももいた。このように、社会科の授業を行うと、自然と子どもが「平和」への捉えに基づいた思いを発することがある。それは、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエル・パレスチナ紛争などの世界の紛争をニュースで目にしていることも少なからず影響しているだろう。子どもは戦争がある今を生きているのである。そのような子どもにとって、「平和」について考えることは切実な問題として心の中にあるのではないかと考えている。他者の思いを大事にしている本学級の子どもは、戦争を通してみえる人々の思いに強く心を動かされていくだろう。多様な価値観にふれながら戦争がどのようなものか感じ、「戦争」や「平和」への思いを互いに語り合い、「平和」の未来を想像することは幸せな人生を歩んでいく子どもにとって価値ある学びになると信じている。

本単元では、「静岡空襲」を教材に戦争と平和について考えていく。静岡空襲は、1944年から断続的に行われ、第二次世界大戦末期の1945年6月19日深夜から20日未明にかけての空襲が一番の被害をもたらした。アメリカ軍のB-29爆撃機123機により現在の静岡市街地に投下された焼夷弾（図1）は約10万発で、約2000人の命が奪われた。静岡市は市街地の66%を焼失し、本校の児童が通う附属静岡小学校も全焼した。現在の駿府城公園も当時は歩兵第三十四連隊の兵営として利用され、市民文化会館と中央体育館がある場所には静岡県監獄署が設けられていた。自分たちが住んでいるまちや通っている学校も空襲の被害にあったことや学校の周辺が戦争関連の施設として利用されていたという事実は、戦争をより切実に考えるきっかけになるだろう。単元の中盤では、静岡平和資料センターで語り部として活動する田中明充さんと出会う。田中さんは1



(図1) 静岡空襲によって落とされた焼夷弾

歳の頃に静岡空襲を経験し、その際に頭部に火傷を負った。田中さんは「母親が手記に込めた反戦の思いを語り継いでいくことが使命である」と語り、「『戦争のこと、平和のこと』を語り継いでいってください」と次世代への願いも強く抱く。語り部と子どもが語り合う経験は子どもの感情に働きかけ、戦争や平和に対する認識をより深いものにしていくだろう。しかし、戦後生まれの人の割合は87.9%（総務省：2023年10月現在）となり、9割近くが戦争を知らない世代となっている。同時に語り部の高齢化も進み、戦争を次世代に繋いでいくことが大きな転換点を迎えている。この事実や語り部の願い、今も世界中で起きている紛争についてもふれていくことでこれから平和の在り方に迫っていくようにしたい。もちろん戦争は多くのものを奪い平和は尊いものであるという認識形成は必要不可欠であるが、そこに留まらず戦争と平和について多角的に理解し、自らの考えを形成することが重要である。その過程で培われた社会認識、見方や考え方は子どものホリスティックな学びを支えるだけでなく、子どもが将来にわたって戦争と平和について考える際の基盤となっていくだろう。

このように、本学級の子どもが静岡空襲を通して戦争や平和の未来を考えていくことは、自分だけの幸せな人生ではなく、全ての人にとっての幸せな人生を見つめていく学びになるだろう。こうした学びが、複雑で多様な現代社会において自分自身や社会の将来を構築するために必要な資質や能力を培うことに繋がると考えている。

#### 4. 本单元における『その子らしく学ぶ』～本单元で願う「心の動きを伴う経験によってその子に還るもの』～

单元の導入で、実際に静岡空襲で投下された「焼夷弾」の実物と出会う。六角形の金属製の筒が「焼夷弾」であることを知った子どもは「静岡市って戦争の被害に遭ったことがあるの？」「家族が言っていたけど、静岡市も戦争の時に空襲に遭ったことがあるらしいよ。どんな戦争だったのかな？」と自分の経験や知識をもとに疑問や気になった事を言葉にするだろう。「空襲を受けた静岡のまちはどんな様子になったのだろうか？」と調べ学習を進めていく中で子どもは、自分の住むまちが空襲によって焼け野原になった事実や附属静岡小学校が焼失してしまった事実などから戦争によって失われるものの大きさや戦争が自分たちにとっても決して遠い存在のものではないことに気づいていくだろう。その中で、ニュースで知り得たロシアのウクライナ侵攻などの情報と結びつけて戦争や平和について自身の考えを構築していくだろう。戦後79年を迎えたことを知った子どもは「戦争を経験したことがある人に当時どんな様子だったのかを聞きたい」と戦争というものが人にどんな影響を与えるものなのかを追究していくくなると推察する。

单元中盤では、語り部である田中さんから戦時中の様子を聞いたり、語り合ったりする機会を設ける。田中さんの語る言葉に心を動かし、その子ならではの感性を働かせながら、過去の戦争や現在も続く紛争、平和についての認識を新たにしていく。ある子は、田中さんの「平和は脆い」という言葉から「平和は脆いってどういう意味なんだろう？世界中で戦争が続いているからかな。そもそも今の時代は平和といえるの？」と平和そのものの解釈を考えていくだろう。またある子は、戦争を経験したことのある語り部が年々減ってきている状況を知り「語り部がいなくなってしまったらどうするのだろうか？」と、これから戦争の記憶を次世代に繋げるための課題に目を向けていくだろう。

单元後半では、「今の世の中は平和に近づいているのだろうか？」という問い合わせ自身の考えをつくっていく。「静岡空襲があった時代と比べると今は平和に暮らせているよ」と過去の戦争の時代と比較して考える子もいるだろう。或いは、「世界中で戦争が起こっているのに平和に近づいているとはいえないよ」と日本だけではなく世界に目を向けて考えを構築していく子もいるだろう。子どもは一人ひとりの平和への捉えや価値観のズレに心が揺れ動き、多角的に戦争や平和について捉え、再解釈していくと考える。中には、「戦争が無くなれば平和になるのか？」と疑問を抱き、日々の人に対する接し方や共感、理解し合うことが重要であると自分自身の生き方を見つめる子どももいるだろう。

このように、戦争を経験した人にふれ、その人の思いを感じながら多角的に追究していく過程で、心を動かしながら社会的事象に対するその子ならではの再解釈・価値判断が行われる。本单元での経験が、社会認識をより深め、現実社会における自分自身の生き方を見つめ、みんなが平和で幸せに生きるためにどうするべきかを考えていくことにつながっていくことを願っている。

## 5. 単元構想（全10時間扱い／本時は第⑨時）

＜教師の投げかけ＞ **子どもの表れ** **最終時における子どもの表れ**

① <先生が持ってきたこれを見てみて>

- ・結構重たいな。鎔びているから昔のものじゃないかな？
- ・昭和20年って書いてあるよ。今から何年前だろう？
- ・戦争があったくらいじゃない？爆弾とか？
- ・え、これ焼夷弾なの？静岡に実際に落とされたやつって言っていたけど、静岡に空襲があったの？
- ・自分の家とか附属小学校とかどうなったんだろう？
- ・戦争って今も起きているよね。ウクライナとかイスラエルとかで
- ・静岡も昔戦争の被害にあってたなんて知らなかつたな
- ・家族から静岡空襲のこと聞いたことがあるよ。静岡市もみんな燃えちゃつたって言ってた

静岡空襲によって静岡のまちがどうなったのかな？

②③ <静岡空襲について調べてみよう>

- |   |  |   |
|---|--|---|
| ・1945年に静岡市に空襲があったみたいだよ。6月20日にたくさんの焼夷弾が落とされたんだ | ・呉服町を中心に空襲があったみたい。この地図だと附属小も空襲の被害を受けているみたいだけどどうなのがな？ | ・駿府城公園に空襲の時の慰靈碑があるみたいだね。他にも静岡市に戦争に関連するものって残っているのかな？ |
| ・第二次世界大戦のときに空襲があつたようだよ。なんで戦争が起きてしまったんだろう？     | ・1日の空襲だけで約2000人の人が亡くなつたみたいだよ                         | ・安倍川花火大会も戦争犠牲者の慰靈の思いから始まつたんだって                      |

- ・静岡のまちが昔こんな被害にあってたなんて知らなかつた。79年前だから自分のおじいちゃんおばあちゃんも静岡空襲を経験しているかもしれないな
- ・空襲当時はどんな様子だったんだろう？実際に経験した人に詳しく聞いてみたいな
- ・セノバの近くに平和資料センターがあるみたいだよ。実際の当時のものとかを見てみたいな

④ <静岡平和資料センターに行ってみよう>

- ・空襲直後の静岡市の写真を見ると本当に全部焼けちゃつたんだね
- ・焼夷弾や銃弾が残されている。今では全く想像ができないけれどこういう時代があったんだね
- ・空襲にあった人の手記を見ると、本当に戦争はその人にとって辛くて苦しい経験だったことが伝わってくる

⑤⑥ <静岡空襲を経験した語り部の田中さんに話を聞いてみよう>

- ・1歳の時に空襲にあったんだね。今もその時の火傷の痕が残っていて、空襲がその人の人生に与える影響がすごく大きいものだと気づいたよ
- ・やっぱり附属小も空襲によって焼失してしまっていたんだ。当時の小学生はその後学校にも行けなくなつてしまつて戦争が終わっても生活にも大きな影響が出たんだね

○教師の働きかけ

○第①時では、子どもが戦争というものに切実感をもてるように、静岡市に実際に投下された焼夷弾の実物を提示する。

○子どもが静岡空襲について切実感をもつて追究できるように、戦争や平和についての思いを問い合わせしつつ静岡空襲についての疑問をまとめいく。

○第②時では、静岡空襲がもたらした影響について考えていけるように、附属静岡小が空襲によってどうなつてしまつたのか、自分たちの住むまちがどのような被害を受けたのかなどの視点を定め追究していく。

○子どもが静岡市の平和資料センターの存在に気付き、実際にやってみたいという思いをもつて、図書室の静岡空襲に関する書籍を調べ学習用資料として教室に用意しておく。

○戦争の被害や平和の大切さを後世に伝える人たちがいることにふれ、戦争や平和についてのその子ならではの解釈をより深められるように静岡平和資料センターへ見学に行く。

○戦争が引き起こす痛みや悲しみをより具体的に感じ、平和を守ることの大切さを肌で感じられるように静岡空襲を経験した田中さんと出会う。語り部との出会いは、その子の感性に強く働きかける出来事になるだろう。

- ・約 2000 人の人が亡くなつて、数字では表せない亡くなつた人の思いがあるんだね。自分よりも小さい子どもも犠牲になつて戦争が本当に悲惨なものなんだって改めて思つた
- ・日本も当時外国に空襲をしていたなんて初めて知つたよ。日本からの空襲を受けた国の人たちも辛かつたんだろうな
- ・今も世界中で起きている戦争は、あまり関係のないことだつて思つた。でも、そこには苦しい思いをしている人がたくさんいるんだね
- ・田中さんの自分たちに平和な未来をつくつていつてほしいという思いがすごく伝わってきたな

⑦ <田中さんと語り合つて感じたことを共有しよう>

- ・田中さんの話を聞いて戦争が本当にたくさんのものを奪つてしまふものなんだなつて思つた。戦争がない世の中になつてほしい
- ・平和が脆いものという言葉が印象に残つた。なんで平和は脆いものなんだろう？
- ・田中さんも今の世の中の平和について考えてみてつて言つていたね。今の世の中つて平和に近づいてゐるつて言えるのかな？

⑧⑨（本時）<今の世の中は平和に近づいてゐるといえるのかな？>

**【いえる】**

- ・大きな世界大戦はなくなつてゐるし、実際に世界中で平和を大切にしようといふ思いが高まつてきてゐる
- ・日本は今、争いもなく生活できているから平和といえるよ

- ・今まさに戦争中の国もあって死んでいっている人もいる。絶対にこれからも戦争を起こしてはいけないつてことだけは言えると思う
- ・平和は脆いって言つていたように、世界中のみんなが努力を続けていかなければ平和はすぐに失われてしまうと思う

**【どちらともいえない】**

- ・国によつてそれは違うと思う。戦争がある地域にとつては平和に近づいてゐるとは言えないと
- ・戦争は減つてきているみたいだけど、戦争がなくなれば平和が訪れるとは限らないと思う

**【いえない】**

- ・ロシアやウクライナの戦争がまだ解決していないのに平和とは言えないでしょ
- ・今は貧困とかテロとかいじめとか他にも色々な問題がある

⑩ これからの自分たちの世界がより平和に近づいていくために何かできることはないのかな？

田中さんが言つてゐたように、語り部の人が減少していくつてゐるから、戦争や平和について学んで私たちが繋いでいかないといけない

一人ひとりみんなに優しい気持ちで接すればいいんじゃないかな。思いやるとか日頃の生活の中でもできることはたくさんあると思う

戦争以外にも世界には苦しんでいる人がたくさんいることがわかつたから、募金するとかそういう行動は大切なんじゃないかな

- ・戦争の原因もたくさんあるみたいだし、戦争や平和についてもつとつと知つていくことが大切だと思った
- ・戦争を絶対に起こしてはいけないといふ平和への思いを色々な人に伝えていくことが大事だと思う
- ・世界には様々な人がいるし、相手の文化や価値観とかを理解して協力していくことが争いを無くすことに繋がつていくと思う

○子どもが、平和な未来を築いていく主体が自分たちであることをより意識できるよう、語り部と子どもの間で語り合う時間を設定する。

○第⑦時では、過去の戦争から現在、未来の平和について目を向けて考えていけるよう、田中さんの「平和は脆い」「今の世の中はどうなのか」という言葉をきっかけに世界の現状について問い合わせていく。

○第⑧時では、子どもが「今の世の中は平和に近づいてゐるといえるのか」という問い合わせについて、根拠をもとに自身の考えをつくりつけていくよう、世界情勢や平和について調べる時間を設ける。

○第⑨時では、A子の様々な人の思いを共感的に受け入れながら考え方をつくりつけていく姿を支えるために、子どもの考えを視覚的にわかるように黒板に提示しておく。

○子どもが平和について多様な視点で考え、包括的な理解ができるよう様々な立場の意見や資料を提示していく。

○第⑩時では、「平和のために自分にもできることがないか」と、行動することの大切さに気付いた子どもの思いを全体に問い合わせ返す。そうすることによって、平和の未来を紡いでいくのは自分たちであるという意識をもつて考えていこう。